

登録コード	L2740600	開講年度	2026				
担当教員	中澤 光平			副担当			
授業科目	日本語学発展演習						
英文授業名	Linguistics of Japanese: Advanced Seminar						
授業タイトル	方言研究の実践（３）						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	金曜・3時限
講義室	人文第5講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ、2021Lカリ、2020Lカリ						
	【2022年度以前加わむ対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー			日本語諸方言についての文献を読み、その内容について、その他の日本語学の資料などを利用して、理解する能力が身につく。			
	【2022年度以前加わむ対象】他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー			発表者と参加者が協力して議論を展開し理解を深めあうことができるようになる。			
	2026Lカリ、2025Lカリ、2024Lカリ、2023Lカリ						
	【2023年度以降加わむ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			日本語諸方言を対象とした先行研究を学び、日本語学、言語学の方法論を身につけるとともに、先行研究を理解したうえで批判的に検討し、自らの主張が的確に表現できるようになる。			
	【2023年度以降加わむ対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】			日本語諸方言についての文献を読み、その内容について、他の資料などを利用して、理解する能力が身につく。また、発表者と参加者が協力して議論を展開し理解を深めあうことができるようになる。			
授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	授業の前半では日本語諸方言を調査する方法について学び、後半では実際に調査を行った上で調査結果を発表してもらう。 受講生は授業の前半で取り組む研究テーマを決定し、調査票を作成する。授業で調査計画についてディスカッションし、ブラッシュアップして実際の調査に備える。 後半では方言調査を実施し、結果報告を行う。仮説と調査結果とその分析を踏まえ、改善点などについて議論する。議論をまとめ、期末レポートを作成する。						
授業計画	第1回 方言調査の方法 第2回 方言調査準備（1）：調査計画（仮説と調査内容の整理） 第3回 方言調査準備（2）：調査票の作成 第4回 方言調査準備（3）：調査計画についてのディスカッション 第5回 方言調査準備（4）：調査票についてのディスカッション 第6回 方言調査の実施（1）：調査地・調査協力者の決定 第7回 方言調査の実施（2）：調査先への連絡 第8回 方言調査の実施（3）：調査の実施 第9回 方言調査の実施（4）：調査後の諸対応 第10回 調査結果報告（1）：調査結果の取りまとめ（1） 第11回 調査結果報告（2）：調査結果の取りまとめ（2） 第12回 調査結果報告（3）：発表資料の作成（1） 第13回 調査結果報告（4）：発表資料の作成（2） 第14回 ディスカッション：仮説と調査結果とその分析 第15回 まとめ、授業アンケート						
成績評価の方法	発表・議論への参加（50％）と期末レポート（50％）による。 演習のため、欠席が5回以上になる場合は議論への参加が不十分と判断し単位を認定しない。ただし、やむを得ない事情による欠席の場合は考慮することがあるので、必ず事前に連絡すること。また、無断欠席が2回以上あると単位を認定しない。 出席していても発言がない場合は議論に参加していると評価しない。						
成績評価の基準	日本語（方言学）の重要事項を最低限理解し表現できる水準への評価は「可（その水準にある）」 日本語（方言学）の重要事項を正確に理解し表現できる水準への評価は「良（やや上にある）」 日本語（方言学）の全体を理解し表現できる水準への評価は「優（かなり上にある）」 日本語（方言学）の全体を理解したうえで自主的な学習の成果が認められる水準への評価は「秀（卓越している）」 上記に至らないものは「不可」						
事前事後学習の内容	発表前はレジュメ作成のため、文献を読み込むだけでなく参考書なども調べて準備する。発表後は発表時の議論内容を復習して、期末レポートの提出に備える。 発表担当回以外は、事前に文献を読んで質問を考えるなど議論参加のための準備をしておく。						
履修上の注意	演習であるから遅刻や無断欠席は特に厳禁である。やむを得ず欠席する場合は事前に必ず連絡すること。やむを得ない事情で事前連絡が困難だった場合（要証明）を除き、授業開始後に連絡しても無断欠席として扱う。						

履修上の注意	日本語学研究室所属（予定）の学生は、本演習とあわせて前期の「日本語学基幹演習」を履修すること。方言調査に関心があるのであれば、他コースの学生であっても履修を認める。
質問、相談への対応	随時受け付けるが、口頭もしくはメールでアポイントメントを取ることに。 メールアドレスはkohein@shinshu-u.ac.jp
教科書	なし。
参考書	井上史雄ほか（編著）（2016）『はじめて学ぶ方言学 ことばの多様性をとらえる28章』ミネルヴァ書房 木部暢子ほか（編著）（2013）『方言学入門』三省堂 小林隆・篠崎晃一（編）（2007）『ガイドブック方言調査』ひつじ書房